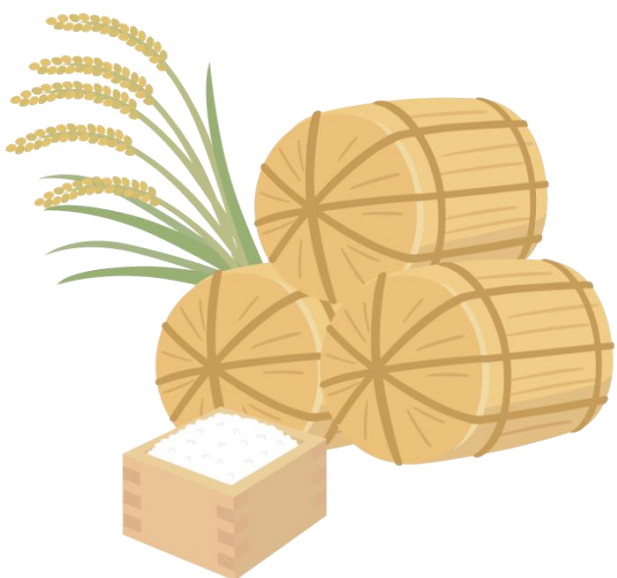


『ほつとたいむ通信』 第八十七号

おいしい新米がでまわるようになりました。今年も価格が高いのは気になりますが…。



「メモ魔のベルボーイ」

東京に目黒雅叙園という結婚式場兼ホテルがあります。その目黒雅叙園でベルスタッフとして働く人のお話です。

+ + + + +

その人は、いつもペンと紙切れを肌身離さず持ち歩いて、一日中ひんぱんに何かを書いています。いわゆるメモ魔です。もちろん仕事なので、ササッと小さな文字でメモります。

ある時、気になって、

「何を書いているんですか」

と尋ねると、こんな答えが返ってきました。

「たとえば、お客様がチェックアウトして、ご出発されるとしますね。玄関まで荷物をお持ちしてお見送りします。この時、何時何分に出発されたか。荷物の形状は。個数は。もし、タクシーをご利用なら、そのタクシー会社の名前やボディにペイントされている無線の番号とかも……」

驚きました。なんと細かいことまで。

「大変でしょう」

と言うと、

「それも仕事のうちですから」

という返事。でも、これが思わぬときに生きてくるのだと言います。

ある日のこと。

お客様から1本の電話が入りました。タクシーの中に忘れ物をしてしまったとおっしゃいます。調べてみると、昨日チェックアウトされたお客様で、正面玄関からタクシーに乗られたことがわかりました。

早速、「その時のメモ」を確認します。利用されたタクシー会社がすぐに判明。電話で問い合わせました。そして、ほどなく荷物はお客様の手に無事に戻ったのでした。

そのお客様から大いに感謝されたことは言うまでもありません。そのメモが役に立つことは、おそらく何度もないでしょう。実際に聞いてみると、「何カ月にも一度、いや年に一度か二度かなあ」と苦笑いします。

その「いざ」という時のために、日々メモをする。すごいことです。

ベルボーイにとって「いざ」という時とは、お客様がピンチの時のことです。いつのことかはわからないけれど、ピンチのお客様に喜んでいただくためにメモをしているのです。それは、気の遠くなる作業だと推察できます。

「毎日が楽しくなる17の物語」より抜粋

株式会社三悦

代表取締役 樋田浩三

令和七年十月